

平成22年度学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立深沢中学校(平成23年3月)

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

全学年で374通の回答があった。今回は394通のアンケートを配布したので、回収率は95%である。
生徒の教育活動に対する評価は、全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。「授業の内容はよく理解できる。」の項目で肯定的意見が70%、「学校全体で部活動は充実している。」では73%、「毎日の学校生活が楽しい」で、71%となっている。また、進路指導に関わる部分は上級学年になるに従い評価はよくなっている。しかしながら、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会は十分ある」では肯定的意見が47%、「先生は誰に対しても公平である。」では昨年度より10ポイントほど上昇しているが47%、「進路に関する情報を十分提供してくれる。」では昨年度の45%からの微増であるが47%と、なお低い割合である。今後、より一層さまざまな指導や取り組みを工夫改善しなければならない。

II. 保護者のアンケートより

全学年で351通の回答があった。今回は394通のアンケートを配布したので、回収率は89%である。
全体的には、昨年度とほぼ同様の値で、肯定的回答の割合が高く、特に、3.学校行事、6.学校運営、7.教職員、9.広報活動・情報提供、11.学校全般については6割～8割の肯定的回答が寄せられ、同じ傾向を示している。しかし教育活動に対する評価の、進路情報の以下の項目で肯定的意見が50%以下であった。「子どもたちの将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している。」が43%、「本校の職員は、親身になって進路の相談にのっている。」は48%である。進路情報に関する保護者との意識の差を埋める工夫改善が必要である。

III. 地域の方のアンケートより

学校協議会委員(警察、出張所、消防、町会長、青少年委員)など30名にアンケートを送付し、17名から回答をいただいた。回収率は、57%である。
今年度アンケート送付数が昨年度と大きく違ってしまったため経年変化として比較することができなかった。配布数が異なることのないよう、今後十分注意していただきたい。地域からの教育活動に対する評価は、ほとんどの項目について肯定的回答が寄せられている。しかしながら「分からない」との回答も昨年度同様が多く、情報提供に關しての改善が必要である。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

今年度より、「学校の重点目標が明確である」という評価項目が保護者・地域・へのアンケート、全方位的な点検・評価に設置された。肯定的な評価は、保護者において60%、地域において77%、教職員(「前年度の学校評価を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している」)において83%である。保護者の評価で思わないの割合が15%で、わからないの割合が21%である。学校の重点目標についてその目的も含め、保護者に周知していく努力を要する。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- ・「地域の人材や施設を教育活動に生かしていく」の項目で、保護者の肯定的な割合は58%であり、地域の方の評価は47%と低い。わからないの割合が保護者は22%、地域は41%と大きな割合を示している。地域の人材や施設をどのように活用していくか検討・改善していく同時に、地域と関連する教育活動について周知していく努力を要する。
- ・保護者における学校協議会の項目は肯定的評価が41%に対し、わからないという評価が40%と他の項目と大きく異なる結果を示している。
- ・情報発信として、ホームページは地域に対して有用なものといえる。
- ・PTA活動へは、大変良好な評価を得ている。保護者の学校への協力体制ができているものといえる。
- ・地域活動・人材活用等において、教職員の評価に比べ、地域・保護者の評価が高いとはいえない。
- ・学校行事の時に地域の協力が盛んであるの項目が肯定的評価が42%であり、学校が地域からの協力をどのように求めていくのか検討を要する。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- ・概ね良好な評価である。
- ・進路指導(キャリア教育)における保護者の評価は、21年度と評価がほぼ変わらず、依然満足できる値とはいえない。
- ・学習指導においては、生徒の「授業の内容がよく理解できる。」の項目で肯定的評価が70%と昨年度変わらない。学習活動は学校の中心的な活動であり、依然満足できる値とはいえない。また、学年毎で見た評価の値では、1年生から2年生へ上がると10ポイント以上の大きな減少することは大きな課題である。
- ・教科「日本語」は、教職員の評価が低く、指導体制の改善を行い、共通理解を図っていくことが課題である。
- ・生活指導においては、全般的に良好な評価であるが、昨年度に比べ10ポイントほど上昇し改善傾向が見られる。
- ・道徳教育においては、教職員の評価が昨年度と同様に低く、昨年度よりもわずかに減少していることが課題である。
- ・学校行事においては、高い評価である。事前・事後の活動・指導を含め、学校の努力の結果といえる。
- ・相談活動においては、学年が上がると評価が高まっていることから、生徒・保護者と学校との信頼関係が深まりをみせているといえる。
- ・部活動においては、教員数・施設面の制約がある中、保護者・生徒の高い評価を得ている。
- ・先生についての「先生はだれに対しても公平である」が50%を下回り2・3年生では40%以下であることは重く受け止めるべきである。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

- ・概ね良好な評価である。
- ・校長のリーダーシップのもと(保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である)、教職員が教育活動に励んでいる様子が、アンケートや学校公開授業等を通して見える。
- ・安全指導や安全管理は適切に行われているが、保護者への周知の度合いは高いとはいえない。
- ・地域アンケートにおいても、学校運営への評価はおおむね良好といえる。

V. 教育環境の整備について

- ・良好な評価である。
- ・上記Ⅳと同じく、保護者の周知の度合いが高いとはいえない。、教育内容(ソフト面)だけではなく、施設・設備等(ハード面)、様々な内容を保護者へ情報提供し理解を深める努力が望まれる。

VI. 学校生活全般について

- ・良好な評価である。
- ・生徒アンケート7－(1)「毎日の学校生活が楽しい」71%、7－(2)「深沢中が好きである」67%、保護者アンケート1－(1)「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」80%、独自項目「本校の職員は、子どもたちを大切にしている。」77%等の結果は昨年度とほぼ同じ値であり、生徒・保護者とも学校生活の充足度は依然高いといえる。
- ・学年毎の集計結果を見ると1・3年生の数値に比べ、多くの項目で2年生の数値が減少している。特に1年生から2年生の数値の減少幅が大きい。原因を究明し、改善していくよう努力していただきたい。

Ⅶ. 数値目標について

- ・3項目とも、高い数値であるが達成されていない。
前年度の水準を維持できたことを評価するとともに、継続して指導体制・方法の整備が望まれる。
①授業の内容はよく理解できるとする生徒の割合を75%以上にする <評価結果(生徒 1 - (1) 70%>
②地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合75%以上を目指す <評価結果(保護者 9 - (2) 70%>
③部活動は充実しているという生徒の割合75%以上を目指す <評価結果(生徒 5 - (1) 73%>
- ・②③は今年度からの新たな数値目標であり継続して推移をみる必要がある。
- ・①は目標値の検討も必要である。

3 全方位的な点検・評価について

Ⅰ. 全方位的な点検・評価の方法は適切であるか

- ・適切に実施されたといえる。
- ・重点目標3項目を加え、項目数77は教育活動を網羅するもので適切である。

Ⅱ. 全方位的な点検・評価の結果の内容は適切であるか

- ・適切な内容といえる。
- ・評価・課題及び改善方針にも述べられているが、教職員の評価と保護者・生徒アンケートとのギャップがみられる項目に対しては学校における十分な検討・改善が必要といえる。(特に昨年度同様な傾向を示している項目については早急な改善が必要である。)
- ・出納・経理等項目で100%の結果を得ていないことに関し、わからないとする教職員がゼロとするため、全教職員の意識を向上させるよう努力していくことが望まれる。

Ⅲ. 全方位的な点検・評価の結果を踏まえた改善方針は適当であるか

- ・報告書並びに説明は、改善方針を含め適当なものである。
- ・多くの改善策が記載されているが、重要度・即時性の必要なものを学校が十分に検討し、具体的な改善を望む。

4 学校の課題及び学校への提言

○アンケート集計結果より、全体的には良い評価結果である。今後も継続して努力し、さらなる向上を目指(推進)していくこと。
○しかしながら、学年毎の集計結果では、学習指導・生活指導・学校行事・部活動の多くの項目で2年生の肯定的評価の値が保護者・生徒共に低くなっている。一部、昨年度よりも肯定的評価の割合が増加した項目もあるが、早急にその原因を分析し、対策を講じていくこと。
○地域との連携においては、地域ボランティア活動等取り組みがみられる。保護者や地域へ学校への取り組み状況等広報活動に努めること。
また、地域が学校にどのような形で協力できるのか、地域と共に考え、次年度以降も地域連携を深める努力を行っていくこと。
○学校協議会の活動等を保護者へ効果的に周知していくこと。
○情報発信に関して、ホームページのさらなる改善をおこない、今後も更新努力を継続していくこと。
○学習指導においては、今年度も昨年度とほぼ同様、全般的に良好な評価である。学年による差異を高い数値のまま減少させていくこと。
生徒 アンケート等を実施・分析を行い、次年度以降もより高い水準を目指す改善努力を行っていくこと。
○道徳においては、授業だけではなく、全校・すべての活動で更なる工夫・改善を図ること。また、地域等との関連や連携も考慮していくこと。
○教科「日本語」においては、指導体制の改善を行い、共通理解をもち、研修等を通して指導の充実を図っていくこと。
○生活指導においては、昨年度より改善してきた様子がうかがえる。引き続き今の状態を維持していただきたい。また、一致した指導体制を推進していくこと。
○学校行事においては、今年度も生徒の満足度は高い。引き続き授業(学習)も大切であるが、生徒の活動を確保し、より良い行事となることを目指すこと。
○相談活動においては、引き続き生徒の心を捉える体制を進め、生徒が安心してすごせるようにしていくこと。
○進路指導においては、キャリア教育(進路指導)＝進学指導でなく、将来にわたり職業人として生きていく力を身につけることであることを、生徒・保護者に理解できるよう、様々な機会をとらえて広報・周知していくこと。
○部活動等においては、生徒の生き生きとした活発な活動がみられる。今後も3年間を通じた生徒活動の充実を行うこと。
○学校の安全性、安全への配慮等は満たされているといえる。保護者へ様々な機会をとらえ積極的にアピールしていくこと。

5 総合所見

保護者アンケート・生徒アンケート・地域アンケート及び全方位的な点検・評価の実施、集計、分析とも適正に行われたといえる。
昨年度の結果と比較すると、アンケート結果はプラス評価はおおむね横ばい状態である。これは学校の努力の成果で22年度はその水準を維持したといえる。しかし、全方位的な点検・評価において、多くの項目で評価が上がっているが、いくつかの関連する項目で評価が共通して下がっているものがある。(少人数教育の成果、教材教具・図書館・施設設備の活用、道徳、周知に関する項目)
校長がリーダーシップをさらに発揮し、重点的に改善策を講じていくことを望む。
一人一人の生徒のために、否定的評価に対してもその数値を減少させていくよう今後も最善を尽くしていくことを願う。

平成22年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会

委員長 井坂 聡

委 員 伊藤 嘉信

浦松 純子 (事務局)

菅田 輝代志 高下 浩淳

武田 泰子 吉原 宏

濱田 和幸 山本 勉

山崎 正己 管野 秀樹